地　理　歴　史

『地理総合，地理探究』

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

新課程に対応した試験科目として『地理総合，地理探究』が新たに実施された。第１問から第６問における 30 の設問で構成され，学習指導要領の「地理総合」及び「地理探究」の大項目を踏まえた出題であり，第１問と第２問は「地理総合」との共通問題，第３問から第６問は「地理探究」の「Ａ 現代世界の系統地理的考察」,「Ｂ 現代世界の地誌的考察」,「Ｃ 現代世界におけるこれからの日本の国土像」に関わる出題であった。

問題作成方針では，学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ，地理に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程が重視されている。なお，評価に当たっては，21ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第３問　世界の自然環境と自然災害に関して，地図や資料から情報を読み取り，地理的事象に関する知識を基に，場所や，人間と自然環境との相互依存関係等に着目して，諸地域の地形や気候，自然災害，地球環境問題，防災分野におけるＧＩＳの活用について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　資料から経緯線に沿った正規化植生指数の分布を読み取り，各地の気候や地形に関する特徴を踏まえ，植生の分布について考察する良問。

問２　三つの国における最高標高地点周辺の陰影起伏図から起伏の特徴を読み取り，各地形の成り立ちと関連付けて考察する問題。

問３　エルニーニョ現象とラニーニャ現象発生時における海面水温を平年値と比較した資料を基に，それらの海面水温の分布や発生要因について考察する問題。

問４　四つの国における浸水による延べ被災者数と被害総額の違いを読み取り，各国の経済水準や人口密度等の知識を基に，その要因について考察する問題。

問５　北半球と南半球の中・高緯度帯において予測される上昇気温別の面積割合を示したヒストグラムから違いを読み取り，気候に関する知識を基に，地球温暖化の影響による地域的差異について考察する良問。

問６　津波への備えについて，ＧＩＳを用いて検討する方法を示した模式図を基に，地理情報の重ね合わせによって導き出すことができるＧＩＳの有用性について考察する良問。

第４問　エネルギーと産業に関して，統計資料や地図を読み取り，地理的事象に関する知識を基に，場所や空間的相互依存作用等に着目して，発電の動向，工業立地，生産・流通・消費の地域的差異，観光，国際分業等について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　いくつかの国の発電方式別の発電量の動向に関する資料を読み取り，各国のエネルギー

政策に関する知識を基に，発電構成の変化について考察する問題。

問２　ウェーバーの工業立地論を説明した資料を基に，製造過程が示されたいくつかの製造業の立地特性について考察する問題。

問３　繊維・衣服の生産から消費に至る各過程に関する主題図を読み取り，工業立地や流通業等の地理的事象に関する知識を基に，繊維・衣服産業の分布の特徴を考察する良問。

問４　ヨーロッパとアジアのいくつかの国の観光業について，観光に関する知識を基に，国際観光収支の特徴と変化を考察する問題。

問５　ファブレス企業が組織するスマートフォンのサプライチェーンに関する模式図を読み取り，ファブレス企業の特徴について考察する問題。

問６　いくつかの国の中間財と最終財の貿易に関する資料を読み取り，各国の国際分業上の位置付けについて考察する問題。

第５問　産業構造の変化に伴う都市の変容について，様々な図や資料を読み取り，地理的事象に関する知識を基に，場所や空間的相互依存作用等に着目して，人口や都市に関する地理的事象について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問１　三大都市圏と地方圏における工業用地の面積の推移を読み取り，三大都市圏から地方圏への工業立地の変化に関する時代的背景について判断する問題。

問２　首都圏に位置する二つの市区の人口構成の変化を読み取り，都市化が人口構成に与える影響に関する知識を基に，再開発が進む地区とニュータウンにおける人口動態の特徴と土地利用の変化を関連付けて考察する良問。

問３　イタリア，オーストラリア，韓国のＧＤＰに占める製造業の割合と都市人口率の推移を示した図から各国の違いを読み取り，産業構造と都市人口の関係性についての一般的共通性と地域的な特殊性を考察する問題。

問４　情報関連産業を構成するいくつかの業種について，従業者数に占める東京都の割合と全国の従業者数の増減率を示した表を読み取り，出版業，新聞業，ソフトウェア産業の立地特性と動向を考察する良問。

問５　都市の変容に伴う課題に関する知識を基に，世界都市ロンドンでみられる様々な地理的事象に関する三つの主題図から地域差を読み取る問題。

第６問　環インド洋地域に関して，様々な資料を読み取り，対象地域に関する知識を基に，空間的相互依存作用や地域等に着目して，思考力，判断力を測る問題で構成されている。この地域における様々な地理的事象の共通性や多様性，結び付きを問うている。

問１　インド洋に面する四つの地点から，熱帯低気圧の発生メカニズムに関する知識を基に，サイクロンの上陸頻度が最も低い地点を判断する問題。

問２　インド洋周辺の四つの地域について，稲作で主に天水田が利用されていない地域を，各地域の気候環境を想起して判断する問題。

問３　インド洋周辺の４か国間における輸出額と移民数を図から読み取り，各国の経済水準や産業構造に関する知識を基に，この地域における国同士の経済的な結び付きや人口流動について考察する良問。

問４　インド洋周辺の国々における宗教人口割合を示した地図を基に，三つの国の宗教人口や歴史的背景，近年の動向等について考察する問題。

問５　モルディブとモーリシャスについて概観した資料を読み取り，両島嶼国の特徴とその歴史的背景，近年の動向や諸課題等について考察する問題。

３　分　量・程　度

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第３問　基本的な知識やそれを基にした思考力を問う設問で構成されているが，やや難易度が高い設問もみられた。問５は，リード文の情報量が多いため，問題の本質を理解するのに時間を要する。

第４問　基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問２は，ウェーバーの工業立地論についての文字による説明の分量が多かった。また，取り上げられた製造業が，製造過程の説明はあるものの，イメージをもちにくいものであった。そのため，提示された資料を的確に理解できたかどうかで差が表れた。

第５問　基本的な知識・技能やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問５は，教科書等でも馴染みのある題材であり，取り組みやすかったと推察され，正答率の高さに結び付いた。資料や文章量ともに適切である。

第６問　基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問１は，サイクロンの上陸頻度が最も低い地点について，熱帯低気圧が発生するメカニズムと結び付けて考察することができたかで差が表れたと考えられ，やや難易度が高い。資料や文章量は適切である。

４　表　現・形　式

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第３問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問１の正規化植生指数の分布や，問５の緯度帯ごとに示した上昇気温別の面積割合に関するヒストグラム等，新しい切り口の資料が用いられた。問２の陰影起伏図は，それぞれの特徴を捉えにくかった。また，問５の選択肢は，図中に直接番号を付す方が，受験者にとって解答に集中しやすいと考えられる。

第４問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問５は，ファブレス企業のサプライチェーンについて，地理的な見方・考え方を，より働かせて考察することが求められるような資料の作成と選択肢の工夫が求められる。問６は，中間財と最終財の貿易収支の差異に，より一層着目させることで，正解を特定できるような問い方の工夫が欲しい。

第５問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問３は，各国で都市人口率の定義が異なることから，注釈でその旨を明記したり，本問における定義を付したりする等，受験者が困惑することのないような配慮を求めたい。大問を通じて生徒が探究学習を行う場面設定は，生徒の興味・関心に応じた探究過程とし，設問ごとのつながりをもたせる等，一層の工夫が求められる。

第６問　多様な資料が用いられており，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問４は，対象地域における言語や宗教等の歴史的つながりや地域的広がり等について，資料を基に考察させるような問い方の工夫が欲しい。

５　ま　　と　　め（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って，学習指導要領において育成を目指す資質・能力を測るための良問で構成されている。特に，高等学校教育で身に付けた，大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料，主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第２問と第５問で場面設定がなされ，特に第２問は，地域調査を行う学習の様子が描かれており，問いの設定や資料の読み取り方，地域的特色や周辺地域との結び付きに関する考察方法，調べたことを基にした話し合いの学習活動が示され，実際の授業場面や学習過程に沿った出題が重視されている。第３問の問６は，自然災害への備えとしてＧＩＳを活用した分析の有用性について考察する，新課程「地理総合」の趣旨や内容に合致した設問であった。高等学校における「地理総合」の学習内容や，そこで身に付けさせたい資質・能力を示すものとして，「地理総合」の設問として出題されたいものであった。第６問では，インド洋とその周辺地域を一つのまとまりとして地誌的な考察を行う出題形式であるものの，静態地誌的な取扱いが中心の構成となっている。この地域区分による出題の意義や意図がみえやすい設問構成の工夫が求められる。

令和４年に公開された試作問題では，第６問に学習指導要領「地理探究」大項目Ｃ「現代世界におけるこれからの日本の国土像」に対応した大問の出題がみられたが，本試験では，第３問の問６，第４問の問６のリード文に国土像について言及されるにとどまった。大項目Ｃは，「地理総合」及び「地理探究」で学習した内容や，獲得した概念を活用して取り組む，地理学習の集大成として位置付けられる重要な学習のまとまりである。したがって，高等学校における授業の在り方への提起として，大問として出題する等，本大項目を学習する意義が伝わる出題の工夫を期待したい。

全体的にはやや難易度が高く，受験者にとって初見となる資料が付された問題がほとんどであり，資料の意味や特徴を理解する上で時間を要するものもあった。第３問の問５や，第４問の問２は，リード文や資料の文章量が多く，正答にたどり着くための着眼点が分かりづらい問題であった。学習量に比して正解が得にくい問題も多く，高得点を取りにくい状況があり，引き続き，高等学校教育の学習実態に即した設問の在り方や，簡潔な文章表現に留意した出題といった改善をお願いしたい。

全体を通して，高等学校での学習内容を基にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所にみられ，高等学校における授業改善の指針となる試験である。